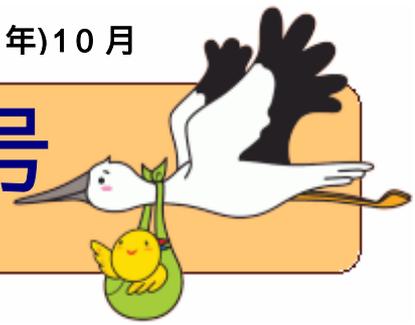


子ども未来通信 10 月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html



県立こどもの館・子どものアートコンクール表彰式(10月28日)

兵庫県の友好提携国・州等と日本全国の子どもたちから募集した絵画をもとに彫刻作品にする「ゆめをカタチにアートコンクール」の表彰式が28日に県立こどもの館で行われ、記念植樹に続き、金賞、銀賞作品が入賞者2名の児童の手で除幕されました。金賞作品「そらとぶれっしゃ」の鵜飼悠帆君(8才・広島市)は、「彫刻が思っていたイメージ通りで嬉しい」、銀賞作品「ぼくらのゆめ」で月まで続く階段を表現したベンジャマン・シカール君(13才・仏)は、「自分の絵が彫刻になって不思議な気持ち。月まで歩いていけたら」と彫刻に目を輝かせていました。(問)県立こどもの館 079-267-1153



金賞作品「そらとぶれっしゃ」



シカール君一家が知事表敬訪問

「ひょうご子育て応援の店」開始に向けた取り組み進む



県は、10月6日(土)から10日(水)まで、多くの買い物客や観光者等で賑わうJR三宮駅前のミント神戸壁面の「ミントビジョン」などで少子対策を紹介するなかで「ひょうご子育て応援の店」募集の広報を行いました。

また、県と子育て応援協定を締結している生活衛生同業組合連合会では、公衆浴場業組合が月1回、子どもの入浴料を無料にするなど、各組合の特性を活かした支援策が検討されており、事業者側の準備も進んでいます。なお、子育て応援の店は、11月下旬からサービス開始を予定しています。(問)県少子政策課 078-362-4232

子育て支援カードの配布を開始(11月~)

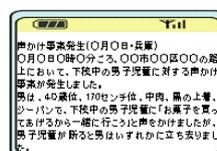
県では、まちの子育てひろばや小児救急医療電話相談など、子育て家庭を支援する事業の情報を盛り込んだ「ひょうご子育て支援カード」を作成し、市町と連携して11月から母子健康手帳の交付時などに配布します。出産前後の早い時期から十分な子育て情報を提供することにより、安心して子育てができるよう支援します。(問)県少子対策課 078-362-4185



子どもを守る「ひょうご防犯ネット」登録者募集

「ひょうご防犯ネット」は、登録会員に対し、パソコン、携帯電話のメール機能を活用して、子どもを狙った犯罪や、ひったくり、路上強盗等の街頭犯罪などの情報や防犯情報を午前6時から午後10時までの間、リアルタイムに配信しています。また、犯人が逃走している殺人事件などは、運用時間外の深夜や早朝でもメールを配信します。登録方法は、パソコン、携帯電話から <http://hyogo-bouhan.net/> にアクセスし、空メールを送信すると会員登録画面が自動返信されます。

(問)県警生活安全企画課 078-341-7441



淡路地域ビジョン委員会が子育て講座を開催（10月14日）

淡路地域ビジョン委員会の県民分野活動グループ“紙ふうせん”は、子育ての問題点や子どもの育ちの状況を知るため、心理士・臨床心理士の話を聞く講座をシリーズで開催しており、10月14日には、発達障害を抱える子どもたちを中心に、学童期の子ども達の現状と子育てについて、「ちょっと気になる子どもの行動の理解」をテーマとして講演会を開催。講師の松下徹氏(新淡路病院・心理士)から、「まず、行動の意味を理解し、子どもの特性として捉え、それを考慮したコミュニケーションをとることが大事」といった話がありました。次回は、「青年期編」の講座を12月に予定しています。

(問) 淡路地域ビジョン委員会 “紙ふうせん” 0799-42-1437



県立こどもの館「父さんの日」フェスティバルを開始（10月7日）

県立こどもの館では、日頃は仕事が忙しく、なかなか思うように子どもたちと一緒に過ごせない父親に子どもと関わることの喜びを体感してもらうため、10月3日を「父さんの日」と名付け、今年は10月7日(日)に「父さんの日」フェスティバルを開催。父親が子どもと一緒に動くおもちゃや紙トンボを作るなど、親子のふれあいを通して絆を一層強める機会となりました。参加した父親からは、「手作りならではの喜びもひとしお。家庭での遊びにもとりいれたい」といった感想が寄せられるなど、父親の子育てに対する参画意識を高めることができました。



(問) 県立こどもの館 079-267-1153

第1回たじま子どもまつりを開催（10月6日）

子育て中の親同士や子育て支援団体間の交流を促すため、但馬の子育て支援団体・機関など41団体で構成する「たじま“子育て”ネット」と但馬県民局との協働により、たじま子どもまつりが県立但馬ドームで開催され、約2千人の親子・家族が訪れました。会場では、子どもの和太鼓・合唱などの芸能発表や人形劇、フリーマーケットなど盛りだくさんのイベントのほか、ミニ列車の乗車やニュースポーツ・伝承遊び・ものづくりなどが行われ、秋の一日を楽しく過ごす親子の笑い声がこだましました。



(問) 但馬県民局地域協働課 0796-26-3644

地域活動体験（保育所・児童養護施設コース）研修を実施（9月26～29日）

県では、少子化問題や男女共同参画に対する理解を深めるため、県、市町の職員を対象として、地域における子育て支援の担い手である保育所及び児童養護施設での現場体験を通じた研修を実施しています。研修先の太寺保育園（明石市内）では、保育士の指導のもと、食事、トイレ、着替え等の生活援助など、9月26日から3日間にわたり体験が行われました。参加した県職員は、「思っていたよりずっと重労働で、子どもを預かることの大変さと責任の重さを改めて実感するとともに、働くお母さんにとって安心して子どもを預けることができる保育園が、とても大切な施設であることを改めて認識しました」と、感想を語りました。(問) 県自治研修所 078-752-1321



いたみすくすくマップ（小児科編・遊び場編）が完成

伊丹市では、就学前の児童を持つ保護者の子育てを応援するため、「いたみすくすくマップ（小児科編・遊び場編）」を作成しました。小児科編は、広げると新聞紙片面程で、診察日等に加え、医院の特徴、外観写真、院長の顔写真を掲載。裏面には各種子育て相談や緊急時の応急処置情報などを掲載し、緊急時に備え、壁などに貼って活用できます。遊び場編は、新聞紙の見開き一面の大きさで、市内の公園情報や特色ある面白遊具の情報などを満載し、親子でマップを楽しめます。さらに、伊丹郷町商業会の協力により、マップ記載の「子育てにやさしいお店」では、小学生以下の子どもと同伴で割引など各種特典を受けられます。このマップにより、子育てがより楽しいものになり、親子でスキンシップを深めるきっかけづくりになることが期待されています。



(問) 伊丹市子ども企画課 072-784-8167

家族の絆づくりを応援します！県民局レポート ～丹波県民局「丹波地区の子育て通信」～

丹波県民局では、まちの子育て広場の新たな開設、活動内容の充実、保護者等の参加の促進を図るため、ひろばの紹介や行事予定などの情報を掲載した「まちの子育てひろば通信」を毎月発行し、ひろばはもちろんのこと、図書館や医師会、民生委員の保育園などに届けています。また、昨年度から、より詳しい情報を掲載し



た季刊誌「まちの子育てひろば通信特集号」を年3回発行。フルカラー化などの視覚効果で活動も分かりやすく、また、紙面枚数を多くし、内容を充実させています。ひろば通信を通じ、ひろば数も増え、いろんな地域からの参加者も得られるようになりました。今後も、ひろばの良さを広く発信していきます。(問) 県柏原健康福祉事務所 0795-72-0500

兵庫労働局「中小企業労働時間適正化促進助成金」のご案内

兵庫労働局では、働き方を見直し、長時間労働の是正に積極的に取り組む中小企業に助成金を支給します。

対象となる中小企業事業主：

特別条項付き時間外労働協定を締結している中小事業主等で、所定の措置を盛り込んだ「働き方改革プラン」(実施期間1年間)を策定し、都道府県労働局長の認定を受け、そのプランの措置を完了した中小事業主

(問) 兵庫労働局監督課 078-367-9151

支給額

区分	支給時期	支給額
第1回	都道府県労働局長の認定を受けた「働き方改革プラン」に従い、特別条項付き時間外労働協定や就業規則等の整備を行った場合	50万円
第2回	都道府県労働局長の認定をうけた「働き方改革プラン」に従い、時間外労働削減等の措置及び省力化投資等の措置又は雇入れ措置を完了した場合	50万円
合計		100万円

第1回近畿「子どもの水辺」交流会 参加者募集(11月30日迄)

県では、水辺に関わる活動を作品等を使って、発表する方を募集しています。(作品のみの参加も可)当日は、水に関する学び・体験ができるコーナーも設置します。対象：近畿府県の小・中学生 応募締め切り：11月30日(金) 交流会日時：平成20年3月1日(土)10:30～16:00 場所：エル・おおさか(予定)

(問) 県河川計画課 078-362-9266

淡路家庭応援・少子化フォーラム(11月13日)

淡路県民局では、多世代のふれあいが減っているなか、家族一人ひとりが家庭や子育ての大切さを考え、地域社会が協力して子どもを生き育てる気運を高めるため、フォーラムを開催します。テーマ「地域・まち・職場で家庭の力を高めよう」 日時：11月13日(火)13:30～16:00 場所：南あわじ市西淡公民館 参加無料 無料一時保育有り (問) 淡路県民局 県民運動課 0799-26-2047

団体、企業、大学等の活動紹介

(社)神戸経済同友会 - 少子化問題への提言を検討

神戸経済同友会の平成19年度提言特別委員会は、「企業の社会的役割」を主題に少子化の進行への対応などについて研究し、議論を重ねています。9月25日に開催された委員会では森・県少子局長が「兵庫県における少子化問題への取り組み状況」をテーマに講演を行った後、意見交換を行い、女性の就業継続への環境整備や、若者が結婚や子育ての喜びを感じられる気運の醸成、県と経済界が協力して子育て支援に取り組んでいく仕組みづくりの必要性などについて、活発な意見が交わされました。



(問) 県少子政策課 078-362-4183

(社)兵庫県看護協会 - いきいき働く助産師カムバック研修受講生募集

(社)兵庫県看護協会では、最新の助産に関する知識や技術を習得し、産科のある病院で臨床実務研修を行い、助産師として職場復帰を目指すことを目的として、潜在助産師就業支援研修会を開催します。

研修期間：11月から3か月間 研修場所：兵庫県看護協会及び実習病院 受講資格：助産師としての臨床経験を持ちながら、現在未就業で、研修終了後助産師として再就業の意思のある方

受講料：無料

(問) 兵庫県看護協会 ナースセンター 078-341-0240



I to 逢 (アイ・トゥ・アイ) (南あわじ市) - 出会いイベントを開催

淡路の若者グループ「I to 逢 (アイ・トゥ・アイ)」(大江陽子代表)は、9月30日に南あわじ市じゃのひれオートキャンプ場で出会いイベントを開催しました。県の「地域づくり活動応援事業」助成を受け、参加者は「ひょうご出会いサポートセンター」や南あわじ市縁結び事業「ハッピーマジックの会」などを通じて呼びかけ、男性14名、女性13名の応募がありました。同時に開催された野外レゲエイベントの開放的な雰囲気のもと、自己紹介やゲームなどで楽しく盛り上がり、2組のカップルが誕生しました。「I to 逢」では12月と来年2月にも出会いイベントを計画しています。



(問) I to 逢 (アイ・トゥ・アイ) 0799-52-0990

大丸 (神戸市) - 「育児を考えるフォーラム」総合フェアを開催

今年、創業290周年を迎える大丸は、今年3月から毎月多彩なテーマでフォーラムを開催してきましたが、その総集編として「育児を考えるフォーラム」総合フェアをセミナー、パネルディスカッション、行政や医師会等のコーナー、協賛企業の展示販売など多彩なメニューを用意して開催します。 日時:10月31日(水)~11月4日(日)10時~20時(最終17時迄) 場所:大丸神戸店9階特設会場 入場無料

詳しくは大丸ホームページ <http://www.daimaru.co.jp/ikuji/> をご覧ください

デジタル・アライアンス (神戸市) - 仕事と家庭の両立支援

デジタル・アライアンス(有本哲也代表)は、インターネットで全国の個人顧客にカーポートやバルコニー屋根を電子商取引で販売している会社です。仕事と家庭の両立支援の取り組みとして、育児休業制度のほか、年に3回取得できる記念日休暇を導入し、また有給休暇を半日単位で取得できるようしています。記念日は誕生日でも子供の参観日でも自由に取得できます。若い女性の多い職場で、将来の結婚や育児ということだけではなく自分へのご褒美として取得を奨励しています。ベンチャー企業は、大企業のような余裕はありませんが、少しずつであってもできることから始めることが重要だと考えています。従業員にとっても社会にとっても地球にとっても「ステキ」な存在であるために、仕事と家庭の両立支援に取り組んでいきたいと考えています。(問) デジタル・アライアンス 078-846-4401



大学コンソーシアムひょうご神戸 - キッズオープンキャンパス

大学を地域の子どもたちに開放し、スポーツ、食育、芸術、文化、子育て相談会等を通して子どもの健全育成に貢献するため、「大学コンソーシアムひょうご神戸」(県内41大学・短大で構成)が主催する「キッズオープンキャンパス」が10月20日~12月8日の間に9つの大学で順次、開催されています。神戸親和女子大学では、10月20日に秋晴れのもと親子など250名が集い、アート、クッキング、スポーツなど盛りだくさんのイベントを楽しみました。オープンキャンパスは、今後、神戸海星女子学院大学(11月23日)、流通科学大学(12月1日)、関西国際大学(12月8日)で開催予定です。申し込みは各大学のホームページをご覧ください。



神戸親和女子大学のイベント

(問) 大学コンソーシアムひょうご神戸 0794-84-3610

編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課): E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 11 月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html



「こうのとり大使」任命式を開催（11月28日）



県は、晩婚化・未婚化に対応するため、社会全体で結婚を支援する「ひょうご出会いサポート事業」等を県内各地域に広げる「こうのとり大使」の任命式を11月28日に県公館で開催。井戸知事が挨拶で、「団塊ジュニア世代が適齢期を迎えており、ひょうご子ども未来プランの確実な計画達成のためにも、出会いのきっかけづくりにご尽力いただきたい」と期待を述べ、引き続き知事が、こうのとり大使（407名）を代表して、市町自治会連合会、市郡連合婦人会など各種団体の代表者12名に委嘱状を交付しました。



（問）県少子政策課 078-362-4232 / ひょうご出会いサポートセンター 078-367-3810

ひょうご家庭応援県民大会を開催（11月8日）

「こころ豊かな美しい兵庫推進会議」に加え、大学、企業、マスコミ、NPOなど624団体で構成される家庭応援ネットワークが県と連携し、11月8日に県公館で「ひょうご家庭応援県民大会」を開催。井戸知事が記念講演で、「家庭を応援する取り組みを地域全体、社会全体に広げよう」と呼びかけました。また、県民運動に参画する団体の代表として、県連合婦人会・北野美智子会長と県生活衛生同業組合連絡協議会・門内耕治副会長が、それぞれの得意分野を活かして家庭応援の取組を展開していくことを力強く宣言し、野尻武敏・こころ豊かな美しい兵庫推進会議会長と固く握手を交わして決意を表明しました。記念シンポジウムでは、地域における家庭応援の第一線で活躍するパネリスト4人が、それぞれの立場から見た家族の現状、地域や職場で家庭を支える方策について意見を交わしました。



（問）県男女家庭課078-362-3169

子育て応援ネット全県フォーラムを開催（11月6日）

県と女性団体ネットワーク会議が連携し、地域ぐるみで子育て家庭を応援する「子育て応援ネット」の全県フォーラムを11月6日に県公館で開催。4市町のネットワーク代表者等の活動事例発表に続き、SOSキャッチの推進や学校等関係機関との連携をテーマにしたパネルディスカッションでは、地域ぐるみの子育て支援の重要性や父親の子育て参加などの必要性が議論されました。



また、加古川の女児殺害事件を受けて、地域女性団体ネットワーク会議から「子どもの安全を守ろう」と緊急の呼びかけが行われました。

（問）県少子対策課 078-362-4185

ヴィッセル神戸と連携して「オレンジリボンキャンペーン」を実施（11月10日）

栃木県小山市で2人の幼い兄弟が虐待の末、橋の上から川に投げ入れられて亡くなった事件（平成16年9月）をきっかけに、児童虐待防止推進月間（11月）の行事として全国で「オレンジリボンキャンペーン」が実施されています。県では、母親クラブ等の協力のもと、プロサッカーチーム「ヴィッセル神戸」と共同して、普及啓発活動を11月10日に神戸市内で実施。ホームスタジアム神戸では選手からの応援メッセージが放映されるとともに、スタジアム周辺でオレンジリボンが配布され、はばたんやヴィッセル神戸のマスコットのモーヴィもオレンジのリボンをつけ、子どもに目くばり気くばりすることの大切さをPRしました。



（問）県児童課 078-362-3182

淡路家庭応援・少子化フォーラムを開催（11月13日）

淡路県民局は、地域ぐるみで子育て家庭を応援する「淡路家庭応援・少子化フォーラム」を11月13日に南あわじ市内で開催。淡路市監査委員大石光正氏が、「子どもに言ってはならない10の言葉」など子育てで気をつけることについて講演。続いて、「地域・まち・職場で家庭の力を高めよう」をテーマにパネルディスカッションが行われ、地元企業や地域の子育て団体等の取り組みなどの紹介や、家族を題材とした小・中学生の作文発表も行われました。



（問）淡路県民局地域協働課 0799-26-2045

「子ども未来プラン推進協議会」を開催（11月12日）

県は、少子対策を総合的に推進するため、福祉、教育、保健・医療、子育て支援、労使など関係団体の代表等27名で構成する子ども未来プラン推進協議会を11月12日に県公館で開催。齋藤副知事が「県財政は非常に厳しい状況にあるが、将来の兵庫、将来の日本を背負う子どもたちへの支援を一層重視したい」と挨拶。委員からは、「行政と企業、NPO、地域団体の連携を一層進めるべき」「県の施策を県民により広く浸透させることが大切」「ワークライフバランスを広めるためには男性の働き方の見直しも必要」など活発な意見が交わされました。



（問）県少子政策課 078-362-4183

父親子育てフォーラム in あわじを開催（11月11日）

淡路県民局は、自主育児サークルのお母さん達との企画により、お父さんも楽しめ、活躍できるフォーラムを11月11日に開催。講師の田川雅規氏（あそびの工房もくもく屋）は、「お父さんも、思う存分子どもとふれあい、一緒に楽しむことが大切」と講演。また、洲本吹奏楽団の演奏にあわせて、手作りのマラカスで音楽を楽しむコーナーや昔遊び（こま回し、お手玉、吹き戻し等）や家族の成長記録作成では、子どもよりお父さんのほうが夢中。参加したお父さんからは、「子どもと触れ合うことの大切さを再認識できました」と声が寄せられるなど、父親に子育てへの参加を促す契機となりました。



（問）淡路県民局洲本健康福祉事務所 0799-26-2036

平成19年度県保育大会を開催（11月10日）

県と(社)兵庫県保育協会は、平成19年度県保育大会を11月10日に豊岡市内で開催し、保育関係者や子育て中の保護者ら約900人が参加。井戸知事は、「保育関係者に日々の活動に心から感謝を述べるとともに、今後とも県が進める少子対策への協力を期待します」と挨拶し、続いて、創意工夫作品コンクール(玩具、絵本)入賞者や永年勤続者の表彰、永田萌・県教育委員会委員長の講演などが行われました。



県立こども病院「小児救急医療センター」開設から2か月

今年10月に、神戸市須磨区の県立こども病院内に小児救急専用のICU（集中治療室）を持つ小児救急医療センターが開設され2か月が経過。その間、「子どもたちの命を守る砦」として、内科的疾患から事故などによる外科系疾患まで、救急処置が必要と判断された重篤な小児患者を県内各地から受け入れてきました。今回のセンター整備によって体制が充実した県立こども病院は、県下の小児三次救急医療施設として、一層の役割を果たしていくことが期待されています。



（問）県立こども病院 078-732-6961

ファミリーサポートセンターアドバイザー等研修会を開催(10月31日)

県は、育児の援助を受けたい人と育児の援助を行いたい人が会員になって子育て中の人や働く人の家庭を支えるファミリーサポートセンターのアドバイザー研修会を10月31日に神戸市内で開催。清原県理事兼少子対策本部事務局長が講演で「これからの子育て支援活動には各機関との連携が重要」と呼びかけ、県看護協会小田常務理事がカンガルーネット(ひょうご病児等緊急ケアネットワーク事業)を、県児童課が病児・病後児保育事業を説明した後、グループディスカッションで、同センターの現状や関係機関との連携のあり方等について意見交換が行われました。



(問)県少子対策課 078-362-4186

特優賃(とくゆうちん)ととくくキャンペーン申し込み募集(11月1日~12月31日)

県住宅供給公社等が建設した優良な賃貸住宅の入居者を募集します。対象世帯: H18年1月1日~H21年3月31日までに入籍もしくは入籍可能な新婚世帯 中学校入学前の子育て世帯 補助: 一般世帯入居者家賃負担額に対し60か月間、月額2万円(問)兵庫県住宅供給公社各事務所: 阪神 0798-63-4810、神戸 078-232-9557、明石 079-423-0117、上郡 079-289-0076 <http://www.hyogo-jk.or.jp/>

県立山の学校体験入学者募集(12月23日)

県立山の学校において、入学希望者や保護者等の体験入学会を開催します。日時: 12月23日(日)10:00~15:00 場所: 県立山の学校 対象者: 入学希望者、保護者等 参加費: 1000円(傷害保険料、昼食代) 内容: 学校紹介ビデオ上映、チェーンソー等の体験、自然散策等 (問)県立山の学校 0790-62-8088

家族の絆づくりを応援します! 県民局レポート ~北播磨県民局~

11月10日加西市で開催された「こころ豊かな美しい北播磨をめざす実践推進大会」において、「子育て応援の標語」優秀作品の表彰式が行われました。この標語は、地域の子育て応援の気運を高めようと当県民局が募集したもので、461点の応募作品から最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作5点が選定されました。最優秀賞は、吉田好美さん(加東市)の作品「子育ては 誰でも一度は悩むもの あわてず 急がず ゆっくりと」。優秀賞は「さりげなく 声かけ見守り 地域の輪」と「行ってきます おかえりなさい 地域のふれあい 明るい未来」。これらの作品は、今後ポスターや県民局ホームページへの掲載など、子育て応援の普及啓発に活用されます。 (問)北播磨県民局地域協働課 0795-42-9513



宝塚市が講演会「6歳までに気をつけたい子育て」を開催(11月12日)

宝塚市は、家庭教育の推進事業のひとつとして、親が学ぶ場づくり「ファミリー・スクール」を実施しており、その研修会として11月12日に宝塚市内で講演会を開催。講師の川寄由起美氏(コミュニケーションズ 代表・臨床心理士)から、「子どもは小さいころから保護者の愛情を受けていると思春期を楽に過ごせる。子育てとは、自立した大人に育てること」との話がありました。参加者からは、「愛情をいっぱい注ぎ、将来への宿題を残さないように、今、がんばりたい」との声が寄せられました。 (問)宝塚市子育て支援課 0797-77-7801



団体、企業、大学等の活動紹介

(株)大丸・「育児を考えるフォーラム」総合フェア(10月31日~11月4日)



大丸では、開業記念事業として、子育てセミナーの開催やベビー用品の展示を行う「育児を考えるフォーラム」総合フェアを10月31日から神戸市内で開催。オープニングテープカットには井戸知事も出席。開催記念講演として、中村肇・県立こども病院院長が、「胎児期から3歳までにスキンシップやアイコンタクトであたたかい心を育てることの大切さ」を呼びかけ、子連れの出場者からは、「授乳時にもしっかり赤ちゃん向き合いたい」といった感想が寄せられていました。 (問)株)大丸 06-6281-9127

在宅ワークを通して社会とつながります～「ペルル」12月スタート！

NPO 法人さんぴいす(河口紅理事長)では、妊娠～育児期の女性が、社会とつながり続ける仕組みとして「在宅ワーク」を提唱する「ペルル」事業を12月から開始します。この事業は、母親たちが今までに培ったビジネススキルや能力を在宅で活用し、子育てしながらでもキャリアアップを目指せる「場」を創るものです。

現在、データ入力・テープ起こし・資料作成など、在宅でできる仕事を依頼する企業・団体を募集しており、依頼した企業等は、子育て支援企業としてペルルがWEBサイトで広報する予定です。なお、この事業は今年度のひょうごボランティアプラザの「チャレンジ事業助成」事業に採択されています。

(問)さんぴいす 0797-22-8896 info@peruru-net.com



赤カレプロジェクト(高砂市)

3年前、高砂市内の三菱重工社宅に住む母親やその友人ら約20人を中心に、未来の日本を支える人材を育もうと、「赤カレプロジェクト」(高嶋早由紀代表)を発足しました。「赤カレ活動とは、イラストに、子どもへの思いをエッセイにして添えた『あかちゃんカレンダー』を制作・販売(1部800円)し、その収益を不妊治療や育児関連事業へ寄付する活動です」と、高嶋氏。A4判で、日付欄には書き込みもでき、育児日記として母親本人が購入したり、出産祝いとして母から娘、夫から妻への贈り物としても喜ばれています。「ハハタチの元気が、日本の未来を明るくする！」をテーマに、奮闘しています。

(問)赤カレプロジェクト 080-3109-3250



(株)アンリ・シャルパンティエ

(株)アンリ・シャルパンティエ(松村はるみ代表取締役社長)は、従業員がイキイキと働き、しあわせな生活を送ることが企業の繁栄につながるとの考えのもと、県の助成金を活用して11月26日に西宮市の洋菓子製造工場・店舗(ルバーススタジオ43)内に事業所内保育施設「Kids Room ばんび～な」を開設。開所式で松村社長が「当社は全従業員2千名のうち8割が女性であり、私自身も子育てしながら仕事を続けてきた。保育室の開設は、イキイキと女性が働ける職場環境づくりの第一歩」と挨拶。技能・経験のある優秀な従業員の長期安定雇用に繋がるとともに、結婚や出産、育児や介護等の理由でやむを得ず退職した社員の職場復帰を支援する復職者支援制度も設けています。



(問)(株)アンリ・シャルパンティエ 0797-31-8348

池田電機(株)

池田電機(株)(横山光雄代表取締役社長)は、蛍光灯・HID用バルブの点灯装置等の製造を行っている会社です。平成19年7月に厚生労働省所管の(財)21世紀職業財団兵庫事務所から、「男性の育児参加推進事業実施事業主」の指定を受け、「男性の育児参加」に全社で取り組んでいます。具体的な取り組みとして、トップによる内外への取り組みの公表、現状の課題の把握、委員会の設置、育児参加促進実施計画の策定・実施、取り組み効果の検証を行っています。現在、社内掲示板・社内報への取組内容の掲載、管理職への研修、全従業員へのアンケートを実施しており、従業員のニーズを把握し、今以上の環境整備を行い、最大のキポイントである男性社員の「意識改革」と「勇気」によって、男性も積極的に育児休業が取得できるよう頑張りたいと思っています。

(問)池田電機(株) 079-293-1131

編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課) : E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 12月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html



オマーン国家評議会議員が井戸兵庫県知事を表敬訪問（12月7日）



オマーン国家評議会のモナ・マフフーズ・サレム・アル・マンゼリ議員が外務省の招聘で来日し、12月7日に兵庫県公館で井戸知事を表敬訪問。青少年交流の促進について話し合った後、清原県理事兼少子対策本部長と児童虐待や女性問題について意見交換を行いました。マンゼリ議員は、「オマーンではDV（配偶者などの親しい関係の男性（女性）から女性（男性）に向けられる暴力）という言葉は聞いた事がなかった。私達は男性が女性を尊敬するよう訴えている。井戸知事が進めている三世同居も良いと思う。これからも女性問題で互いに助け合いましょう。」とコメントされました。

（問） 県国際交流課 078-362-9017

“ひょうご子育て応援の店”事業が約500店舗でスタート（12月11日）

子育て世帯を社会全体で支援する「ひょうご子育て応援の店」事業が12月11日にスタートし、公衆浴場、クリーニング店やコープ神戸、そごう神戸店・西神店、但陽信用金庫、たじま農業協同組合など495店舗がステッカー（写真円内）を店頭に掲示し、料金割引や景品プレゼントなどのサービスを開始しました。

このうち、県クリーニング生活衛生同業組合では「今後とも県と積極的に提携して子育て応援の店を盛り上げていきたい」と準備が整ったクリーニング店からギフト券プレゼントのサービスを開始しています。

（問） 県少子政策課078-362-4232



※詳細は、http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000024.htmlを参照ください。

豊岡市も「とよおか子育て応援カード事業」を開始

豊岡市も、12月に市内の子育て家庭を応援する「とよおか子育て家庭応援カード事業」を開始。県は市外の子育て世帯も豊岡市の協賛店舗のサービスを受けることができるよう、市の協力を得て市内の協賛店舗を子育て応援の店にも登録いただきました。県では、豊岡市と同様に、市町と協働して商店街など地域の店舗にも子育て応援の店事業への参加を促進したいと考えています。

（問） 県少子政策課 078-362-4232

新たに公文学習塾、マクドナルドが応援の店に参加 - 20年1月7日に子育て応援の店は1,516店へ

12月17日に日本公文教育研究会（学習塾826カ所）が応援の店に参加し、子育て教育相談や読み聞かせ手本の配布などのサービスを開始しました。また、日本マクドナルド(株)は、平成20年1月7日から県内157店舗が応援の店に参加し、Happyセットの割引販売の開始を予定しています。なお、マクドナルドの店舗でサービスを受けるには、「子育て応援パスポート」（写真）の掲示が必要です。

（問） 県少子政策課 078-362-4232



※パスポートは携帯電話から取得、利用できます。詳細は下の記事を参照ください

“ひょうご子育て応援の店”パスポートの取得方法

携帯電話で右のQRコード（または apply@hyogo-kosodate.jp）にアクセスし、必要事項を記入・送信いただければ、携帯電話にパスポートの画面を送信します。（QRコードは、店舗のステッカーにも印刷されています）

※携帯電話を利用されない方は、往復はがきで申し込みいただけます。詳しくは右記にお問い合わせください。（問） 県少子政策課 078-362-4232



協力店舗のステッカー



県立明石学園児童が県を表敬訪問（12月26日）

県立明石学園の児童が、第29回近畿児童自立支援施設女子バレーボール大会優勝と第27回同施設駅伝大会男女優勝報告のため、細川・県健康生活部長と森・少子局長を訪問。明石学園は女子バレー大会2連覇、女子駅伝は



7連覇、男子駅伝も過去優勝12回と優秀な成績を収めています。

児童からは「毎日練習してきた成果が発揮できてよかった」と晴れやかな表情で報告があり、細川部長らも自身のスポーツ体験を話すなど、和やかに懇談が行われました。（問）県児童課 078-362-3198

子育て支援テレビ番組「みんなで子育て」を収録（12月13日）

企業の協賛を得て県が制作中のテレビ番組「みんなで子育て」の収録が12月13日に行われました。

育児休暇を取りながら2児の子育てに奮戦中の川崎さん（関西スーパーマーケット勤務）、駅の保育所で保育士として活躍中の山本さん（JR六甲道キッズルーム園長）、「のびやかスペースあーち」で子育て支援ボランティアをしている大学生の伊原さん（神戸大学）がゲスト出演し、井戸知事も自身の子育て時代のエピソードを披露するなど子育てに関する様々な話題で盛り上がりました。番組は12月30日、1月6日、13日の午前9時からサンテレビで放送されます。

協賛企業等：（株）ジェイアール西日本交通サービス、（株）ベネッセコーポレーション、（株）神戸ポートビジュアル、但陽信用金庫、（株）関西スーパーマーケット、シメックス（株）、ピオフェルミン製薬（株）、県企業庁
（問）県児童課 078-362-3182



みらい子育てネット兵庫県地域活動連絡協議会の大会を開催（12月13日）

みらい子育てネット兵庫県地域活動連絡協議会兵庫県大会が県立こどもの館で開催され、わらべうた講師・井上美鈴さんの講演に続き、参加者が実際にわらべうたに合わせて手遊びなどを体験し、3つの母親クラブがダンスや手話コーラスなどを披露。今回の研修には地域の児童委員も参加して、母親クラブ会員との意見交換も積極的に行われ、今後の地域活動の充実や相互の活動の連携を一層深める機会にもなりました。（問）県児童課 078-362-3182



父親子育てフォーラムを開催（12月8日）

普段子どもと関わることの少ない父親が子育てへの理解を深め、家庭における父親の役割を再確認するため、神戸県民局が『父親子育てフォーラム』を開催。小崎恭弘、光成研一郎・神戸常盤短期大学准教授らによる講演の後、保育士が参加して親子ふれあい遊びを楽しみました。参加した父親から、「今までにない講演の形態で参加者がお互いの本音を聞け、楽しかった。育児にもっと参加しようと思った」といった声が寄せられました。

（問）神戸県民局企画県民部 078-361-8627



カンガルーネットフォーラムを開催（12月2日）

保育所などに通う子どもが病気になった時に、サポーターが保護者の代わりに受診に付き添ったり、子どもを自宅等で預かるカンガルーネット事業（ひょうご病児等緊急サポートネットワーク事業）を普及するため、（社）兵庫県看護協会がフォーラムを開催。小崎恭弘・神戸常盤短期大学准教授による基調講演、パネルディスカッションに加え、童謡ミニコンサートなどの企画に、親子づれを含め、多くの参加者が楽しみながら事業を理解する機会となりました。カンガルーネットは、現在、尼崎市と姫路市で事業が実施されており、今後、他の地域にも拡大される予定です。（問）兵庫県看護協会 078-341-3810

思春期ピアカウンセリングを実施しています。

思春期は心身ともに変化が大きく、体のこと、恋愛、性のことなど様々な悩みを抱えている時期です。県では平成18年度から思春期ピアカウンセリングを「ひょうご子ども未来プラン」の“未来の親への支援”に位置づけ、思春期の問題に関する知識やカウンセリング技術を身につけた思春期ピアカウンセラー(大学生等)が、高校生などの自己決定や問題解決能力を高めるための講座や相談を県内の高校などで実施しています。

(問) 県健康増進課 078-362-3250



兵庫陶芸美術館が「ひなまつり」のやきもの創りの参加者を募集(平成20年2月16日)

兵庫陶芸美術館(篠山市)が、「ひなまつり」のおひさなまをやきもので創るワークショップを開催します。

◇日時：平成20年2月16日(土) 午前コース10～12時、または午後コース14～16時 ◇場所：兵庫陶芸美術館

◇対象者：親子・友人等15組 ◇参加費：大人¥1300 子ども ¥500 ◇締切2月9日(土)まで。

(問) 兵庫陶芸美術館 079-597-3961

家族の絆づくりを応援します！県民局レポート ～中播磨県民局

中播磨県民局が「これからの家族を考える」をテーマに12月14日に姫路市内で中播磨家庭応援フォーラムを開催。野々山久也(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 少子・家庭政策研究所長から、現代人の家族観に関する報告を聞いた後、パネルディスカッションで、小・中学生や幼稚園児の父親が子育ての悩みなど話し合う団体「おやじの会」の活動や、男性が育児休暇を取得した時の体験談、地域のお母さんと助け合いながら子育てをしているサークルの活動などの報告と意見交換が行われました。(問) 中播磨県民局地域協働課 079-281-9320



(財)21世紀職業財団がワーク・ライフ・バランス企業診断・認定事業を開始

(財)21世紀職業財団は、ワーク・ライフ・バランス(WLB)について企業に自己診断と自主的な取り組みを奨励するためにWLB企業診断指標と認証基準を開発し、運用を開始しました。企業はこれらを活用して自



社のWLB度を自己診断でき、さらに希望する企業には、同財団に設けるWLB審査認証委員会が認証基準に基づき審査を行い、「社員を大切にしているエクセレント・カンパニー」と認証された場合にはWLB認証マーク(左図)を使用することができます。WLB企業診断指標及び認証基準は財団のホームページで公表されています。

(財)21世紀職業財団兵庫事務所 078-393-8311

かわにし子育てフェスティバルを開催(12月1日)

川西市は、子育て支援に関わる19の機関・団体の連携と子育て中の親子の交流促進などを目的に“かわにし子育てフェスティバル”を開催。約450名の親子が人形劇や大型紙芝居を観て、保護者も一緒に折り紙を折って楽しみました。また子育てサロンでは、保育士・保健師や栄養士が子どもと遊びながら試食を通して“食”についてわかりやすく話しました。参加者からは「親切に子育て相談に乗ってもらい、子どもたちは食育を学ぶことができるなど有意義だった」などの声が寄せられました。

(問) 川西市すこやか子ども室 072-740-1179



三木市が病後児の保育サービスを開始（12月1日）

三木市は、病気やけがの回復期にある子どもを一時的に預かる病後児保育室を小児科神沢クリニックに運営を委託して開設。子育ての経験のある看護師と保育士の計6人がスタッフとして配置され、それぞれ1人ずつが常駐。利用は登録制で、既に46人が登録申込みをされています。看護師の清水加代子さんは「働く女性が増える中、安心して子どもを預けてもらえるよう家庭的な雰囲気にしていきたい」とコメント。三木市の保育室が北播磨地域では初の医療機関併設型の病後児保育室となります。



(問) 病後児保育室ノア 0794-83-5960

団体、企業等の活動紹介

りぼんネット（市民サポートセンター明石）

りぼんネット(田坂美代子代表)は、子育て支援の活動として平成19年8月から、子どものための絵画教室、学習教室に取り組んでいます。3歳から小学5年生まで、ハンディを持つ子や不登校の子も受け入れ、様々な子どもたちがいっしょに楽しいひとときを過ごしています。この半年間の成果発表として平成20年2月29日から3月2日まで明石市立勤労福祉会館で作品展の開催を予定しており、3月2日には言語聴覚士として活躍中の泉和男氏(こども発達サポートセンター)の講演会が行われます。



(問) りぼんネット 078-927-7633

「仕事と家庭両立のための休暇制度」 - 港建設(株)（神戸市）

港建設(株)(金原太郎代表取締役社長)は公共土木工事中心の施工会社。皆が忙しく働いている中で“遊びのための休暇”は取りづらい雰囲気があったため、平成15年に法で定められた有給休暇以外に年5日のリフレッシュ休暇制度を設けました。会社で精一杯働けるのは、充実した家庭生活があってこそ。家族と過ごす時間を大切にして、子どものいる社員には授業参観・運動会などにも出席できるよう、休暇を時間単位でもとれるようにしており、目下、家族旅行や地域の祭り参加などに活用されています。“責任ある仕事は、責任ある家庭生活から”を信条に今後も充実した職場環境を作っていきます。



(問) 港建設(株) 078-961-3963

出会い交流事業～「異人館 ちょい恋 X mas」を開催（加西市）

加西市労働者福祉協議会は12月2日に神戸市北野町で、加西市出会いふれあい交流事業「異人館♪ちょい恋 X mas」を開催し、男性11名と女性12名が参加。晴天のなか、グループでクイズを解きながら異人館周辺の散策を楽しんだ後、創作フランス料理に舌鼓をうち、優雅なひとときを過ごし、3組のカップルが誕生しました。

第2弾として平成20年2月10日に「開運♡ふくふくパーティー」を開催します。加西市の酒造「富久錦」での美味しい料理とアカペラグループ「ブラックガム」による愉快的コンサートを交えた交流会を予定しています。



(問) 加西市労働者福祉協議会 0790-42-3334

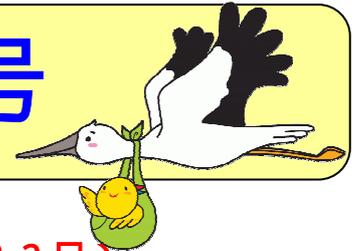
編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課) : E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 1 月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html



兵庫県測量設計業協会と子育て応援協定を締結（1月22日）



県と(社)兵庫県測量設計業協会は、神戸市内で子育て応援協定を締結。同協会は加入 110 社を対象に、労働時間と職場環境等に関するアンケート調査を実施するなど仕事と生活の調和の推進に向けた活動や、こども 110 番など地域の子育て支援に取り組んでいます。井戸知事と野瀬会長が協定書を交換した後、野瀬会長が「この協定の重みを肝に銘じ、少子対策につながる取り組みを一層進めていきたい」と決意を表明しました。

(問)県少子政策課 078-362-4232

「子どもの眠りと脳の発達」に注目 - 子ども未来プラン推進委員会(1月22日)

県は、少子対策の推進について専門的な立場から意見を聞くため、学識者や地域団体・NPO関係者などで構成する「子ども未来プラン推進委員会」を開催。岡田眞美子・県立大学教授を委員長に選任した後、三池輝久・熊本大学教授から「子どもの眠りと脳の発達」について説明を受けた後、委員から、「子どもの夜更かしは医学的にも問題があることを周知する必要がある」、「就寝時間を始め、子ども中心の家族生活へと見直す必要がある」など、様々な提言が出されました。

次回の委員会(3月)では、古橋エツ子・花園大学教授から諸外国の最新の少子対策などの報告を得て意見交換を行う予定です。

(問)県少子政策課 078-362-4183



「ひょうご子育て施設コラボネット」設立記念フォーラムを開催（1月14日）

県立こどもの館は、地域の子育て施設相互の情報共有を推進し、連携を図るため、「ひょうご子育て施設コラボネット」を設立し、児童館、地域子育て支援センターや子育て学習センターなどの子育て施設が参集して連携推進を図るためのフォーラムを開催。活動事例報告とパネルディスカッションが行われ、参加者から「他の施設がどのような取り組みを行っているのか知りたい」、「最新情報をいち早く得たい」、「読み聞かせなどの具体的な活動を通して相互に連携し合いたい」といった声が寄せられました。

(問)県少子対策課 078-362-4185



南あわじ市長が少子化対策・男女共同参画担当大臣を訪問（1月23日）



上川陽子・少子化対策・男女共同参画担当大臣からの要請を受け、中田勝久南あわじ市長が上川大臣に市の少子対策などの説明を行いました。

同市は、昨年 1 月に少子対策推進本部を設置し、4 月に少子対策課を新設するなど、市をあげた取り組みを進めています。上川大臣は「他の自治体にも弾みになる。各自自治体に少子化対策を進める部局の設置を求めている」とコメントしました。

(問)南あわじ市少子対策課 0799-44-3040

「子育てサポートカード」で妊娠や出産の相談窓口を紹介



県児童課は、妊娠や出産、子育てなどで悩みを抱えている方に相談窓口を紹介する「子育てサポートカード」を作成しました。名刺サイズのカードの表に、各市町の子育て相談窓口につながるQRコードや(社)家庭養護促進協会の連絡先(078-341-5046)、裏には児童福祉施設や里親についての相談窓口として、各子ども家庭センターの連絡先が記載されており、2月下旬からドラッグストア等で配布する予定です。

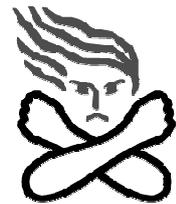
(問) 県児童課 078-362-3182

配偶者暴力防止法が改正(1月11日)

保護命令制度の拡充、市町村に対する基本計画策定の努力義務等を定めた配偶者暴力防止法の一部改正が行われ、1月11日に施行されました。法改正を踏まえ、県は平成20年度にDV対策基本計画の改定を行います。

法改正の主な内容

- 保護命令制度の拡充
- 1 生命又は身体に対する脅迫を受けた被害者に係る保護命令
- 2 電話等を禁止する保護命令
- 3 被害者の親族等への接近禁止命令
- 市町村基本計画の策定の努力義務
- 配偶者暴力相談支援センターに関する改正
- 1 市町村による配偶者暴力相談支援センター設置の努力義務
- 2 被害者の緊急時における安全の確保を配偶者暴力相談支援センターの業務として明記
- 裁判所から配偶者暴力相談支援センターへの保護命令発令の通知



女性に対する暴力根絶のマーク

(問) 県児童課 078-362-3182

地域でほめて育てよう東播磨フォーラムを開催(1月19日)

東播磨県民局は、地域ぐるみで健全な児童育成に取り組むため、「こころ豊かな子どもを育むまちづくり応援事業 ほめて育てる東播磨っ子」を推進しています。この事業の一つとして「地域でほめて育てよう東播磨フォーラム」を播磨町内で開催。広岡義之・兵庫大学教授による「子どもと大人の信頼関係」をテーマとした講演が行われ、意見交換では、参加者から、「子どもとのかかわり方から、私たち大人の生き方や地域づくりについて考える機会になった」といった声が寄せられました。

(問) 東播磨県民局県民生活部 079-421-9105



阪神南地域夢会議・さわやかフォーラムを開催(1月26日)

阪神南地域ビジョン委員会と阪神南県民局は、「子どもの未来に向けて」をテーマに阪神南地域夢会議・さわやかフォーラムを西宮市内で開催。子育て、自然環境や世代を越えた地域づくりといった幅広い観点から子どもを取り巻く地域の課題に関する地域ビジョン委員のプレゼンテーションの後、学識者や井戸知事らによるパネルディスカッションを開催。参加者から、「自然環境や人間関係など様々なことを学ぶことができるような、子どもの体験の機会を増やしたい」、「地域のいろいろな人を巻き込んで子どもに関わっていこう」などの意見が寄せられました。

(問) 阪神南県民局地域ビジョン課 06-6481-4558



「2008 チルドレン・グリーンカップ・サッカー大会」を開催(1月26日)

兵庫県児童養護連絡協議会は、県内の児童施設入所児童による施設対抗のサッカー大会「2008 チルドレン・グリーンカップ・サッカー大会」を三木市内で開催。14チームが参加し、「リーグさながらの熱戦が繰り広げられ、決勝戦は白熱のPK戦になるなど、フィールドで冬の一日を過ごす元気な児童の声がこだましました。参加した児童は「初めての相手とでもすぐに打ち解け、みんなと友達になれました」とさわやかな表情で語り、交流と友好を深めました。



(問) 県児童課 078-362-3198

県立神出学園がピオトープづくり

県立神出学園では、自然とのふれあいや様々な体験活動を通して不登校の青少年の自立を支援するため、授業の一環として学園生がピオトープづくりに取り組んでいます。学園スタッフは、「ピオトープづくりを通じ、学園生の表情に充実感が出ている」と、活動に大きな期待を寄せています。また、同学園では、4月生を募集するため、「冬の体験型学園説明会」を2月22日に実施。対象は、不登校やひきこもりの悩みを抱える県内の中学3年生とその保護者です。(定員15組、参加無料、要事前申込)



(問) 県立神出学園 078-965-1122

NPO と行政の子育て支援会議が小規模保育シンポジウム参加者募集(2月23日)

NPOと行政の子育て支援会議(NPO等94団体、行政43団体で構成)は、ニュージーランドから講師を招き、少子化の時代の中で、小さな規模の保育は子どもたちにどのような働きかけができるのか、どのように子育て支援の一翼を担えるのかを考えるシンポジウムを開催します。日時:2月23日(土)10:00~16:30 場所:神戸市勤労会館308号室 参加料:午前(講演)、午後(パネディスカッション)各1,500円(兵庫自治学会員は無料) 17時から交流会開催(参加料800円)

(問) こどもコミュニティケア 078-793-5477

家族の絆づくりを応援します! 県民局レポート ~西播磨県民局~

西播磨県民局と西播磨女性団体連絡協議会、赤穂市連合婦人会が連携し、地域ぐるみで子育て家庭を応援する「西播磨地域子育て家庭応援ネットワーク交流大会」を12月1日に赤穂市内で開催。岡山県青少年健全育成促進アドバイザー・森美智子氏による講演を聴き、地域の大人たちが子育てに積極的に関わる機運を高めました。また、SOSキャッチ活動マニュアルを配布し、参加者が発見から家庭支援までの流れ等を再確認しました。(問)西播磨県民局地域協働課 0791-58-2129



内閣府が「仕事と生活の調和推進室」を設置(1月8日)

内閣府は、仕事と生活の調和を実現するため、企業、勤労者と国、地方公共団体のネットワークを支える中核的組織として「仕事と生活の調和推進室」を設置。室長以下19人で組織され、「仕事と生活の調和憲章」及び「仕事と生活の調和推進のための行動指針」に基づく政府の推進キャンペーン等の企画・立案や関係機関の総合調整などの事務を所掌します。

(問) 内閣府仕事と生活の調和推進室 03-3581-9268

女性チャレンジひろばを開設(三木市12月19日、加西市1月5日)



出産・育児等により一度退職し、再び就職や起業、地域活動等にチャレンジする女性がワンストップで必要な情報提供や相談を受けられる「女性チャレンジひろば」が三木市と加西市に開設され、女性がより身近な場所で相談を受けられるようになりました。「ひろば」は、県内13市で開設されており、今後も各市町に順次、「ひろば」が開設される予定です。

(問) 県男女家庭課 078-362-3160

明石市役所庁舎に保育ルームを開設(1月15日)

明石市は、子どもを連れて来庁する方が安心して各種の届出などを行えるよう、市役所本庁舎1階に無料の保育ルームを開設。子育て支援活動を支援する「明石市子ども基金」を活用して、おむつ交換や授乳スペースが設置され、保育士が幼児の一時保育を行います。対象は1歳から小学校就学前の幼児で、定員10人。利用時間は市役所開庁日の9時から17時まで(預かりは1時間まで)。当日、総合案内係が、受け付けます。



(問) 明石市市民相談課総合案内係 078-918-5188

西宮市で家庭教育フォーラムを開催（1月19日）

西宮市教育委員会と西宮市家庭教育振興市民会議が家庭教育フォーラムを開催し、富田和巳・(社)大阪総合医学・教育研究会こども心身医療研究所所長による講演の後、仲野好重・大手前大学現代社会学部教授をコーディネーターに参加者と意見交換が行なわれました。参加者から、「子育てをする中の疑問が今日、晴れた気がした」、「四季折々の日本独自の行事を大切にすることを教えることが、日本の良さを学ぶ機会になることになることがわかった」といった声が寄せられました。



(問) 西宮市教育委員会社会教育文化財グループ 0798-35-3868

団体、企業、大学等の活動紹介

神姫バス（株） - 人形劇の上演

神姫バス(株)は、社員が家庭と仕事を両立できるための職場環境整備や地域の子育て支援活動に取り組んでいます。このうち、明石営業所では、『神姫劇(しんきげき)』の愛称で4年前から毎夏、同営業所の運転士がボランティアで地元の保育園や幼稚園などに赴いて人形劇の上演を続けており、劇を通して子ども達に交通安全や海での事故防止など、夏休みを元気に過ごすための知識を楽しく伝えています。今後も神姫バスでは、「地域共栄・未来創成」の企業理念の下、将来を担う地域の子ども達のためにこうした活動を続けていきます。



(問) 神姫バス(株) 079-223-1351

男女共同参画ネット尼崎 - 尼崎子育てキーステーション事業

NPO法人・男女共同参画ネット尼崎は、支援を依頼したい人と支援をしたい人が会員登録をして相互支援活動を行う子育てキーステーションを1月15日に開設しました。同ステーションでは、乳幼児の一時保育、親の出産・病気等の際の家事援助、通院・入院時の付き添いや、就園前の幼児に集団遊びの楽しさを体験させる共同保育などを行い、家族だけでの育児が難しい子育て家庭を支援しています。その他、イベントや研修時に現地へ出向く出前保育も行う予定です。



(問) 男女共同参画ネット尼崎 06-6499-5486

神戸親和女子大学 - 子育て支援センター「すくすく」

神戸親和女子大学は、1月11日に未就園の子どもとその保護者を対象とした子育て支援センター「すくすく」を開設しました。センターは平屋で、乳幼児用のトイレや授乳室も設置し、平日に保育士が常駐し、子育ての相談に応じる子育て相談プログラムや、学生がボランティアで子どもの遊び相手もするディリープログラム等を行っています。また、金曜日の午前中は、事前に申し込んだ10組の親子を対象に、教員と学生が絵本や歌遊びのプログラムを提供するウィークリープログラムも行って、地域の親子と学生の世代間交流の拠点となることを願っています。



(保護者同伴が条件、参加無料、要事前申込) (問)子育て支援センター 078-591-2052

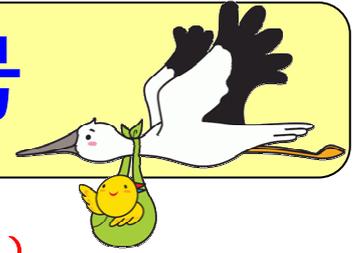
編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課) : E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 2 月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_00000002.html



兵庫県が少子対策等を重点課題とする予算案を発表（2月13日）



予算案を発表する井戸知事

井戸知事は、平成 20 年度当初予算案を発表し、財政の健全化を図るため、限られた歳入の中で「選択と集中」を徹底して、少子対策などの重要な課題に取り組むことを表明。当初予算案には、少子対策の重点事業として、多子世帯の保育料軽減（例：0～2 歳児の保育負担額が月額 6,000 円を超える場合に 4,500 円を限度に助成）、在宅の子どもと家庭を支援する保育所・幼稚園での 2 歳児等子育て応援事業、事業所内保育施設整備助成などが提案されています。

(問)県少子政策課 078-362-4183

新規施策について県・市町が意見交換 - 少子対策協働会議（2月21日）

平成 20 年度当初予算案の発表を踏まえて、県・市町少子対策協働会議が開催され、県少子対策本部の関係課長が市町担当課長に新規施策等を説明した後、質疑と意見交換が行われました。なお、新規事業等については、新年度からの円滑な実施に向け、引き続き県・市町との協議が行われる予定です。



(問)少子政策課 078-362-4183

「仕事と生活のバランス」の推進に向けフォーラムを開催（2月8日）

県は、連合ひょうご、県経営者協会と締結した「仕事と生活の調和と子育て支援に関する三者合意」（18 年 3 月）に基づき、企業と協働した取り組みを進めており、このたび、子育て応援協定締結式、(株)アンリ・シャルパンティエと小泉製麻(株)による先進事例発表に続き、多様な働き方の実現に向けたシンポジウムが行われました。このうち、子育て応援協定締結式では 50 社の代表が井戸知事との間で協定書を交換。協定締結企業は、これまでに締結した企業を含め、計 255 社に広がりました。



(問)少子政策課 078-362-4183

国が「ワーク・ライフ・バランス シンポジウム」を開催（2月16日）

国は昨年 12 月に策定した「子どもと家族を応援する日本」重点戦略の柱として「ワーク・ライフ・バランス」(仕事と生活のバランス)を掲げ、憲章や行動指針を策定。その普及に向け、上川陽子・少子化対策担当大臣が出席し、東京都内でシンポジウムが開催されました。基調講演に続いて行われたパネルディスカッションには、行政代表として清原県理事兼少子対策本部事務局長が出席し、国に先駆けて県、連合、経営者協会と締結した三者合意の具体化等の取り組み状況の紹介などを行いました。



(問) 県少子対策課 078-362-4186

小規模保育シンポジウムを開催（2月23日）



こどもコミュニティケア（末永美紀子代表）、NPOと行政の子育て支援会議、兵庫自治学会などが共催して「小規模保育シンポジウム」を神戸市内で開催。ニュージーランドから招いた講師による事例発表に続き、パネルディスカッションでは、「小規模保育では、子どもと保育士の関係が緊密に保てる」などの意見がありました。また、ランチタイムにはポスターセッションを見ながら、また、シンポジウム終了後の交流会において、子育て支援に関する情報交換が行われました。

（問）こどもコミュニティケア

韓国の少子対策担当者が来県（2月21日）



韓国・京畿道庁等の少子対策担当者24名が来県し、「ひょうご出会いサポート事業」を中心に、県の少子対策について説明を受けた後、質疑応答が行われました。訪問団の元訓植代表は、「韓国でも少子化が深刻。兵庫県の先進的な取り組みを参考にして対策を急ぎたい」と語りました。

（問）県少子政策課 078-362-3242

県立こどもの館が子育て3世代交流事業等を開催（2月17日ほか）

県立こどもの館は、2月17日に、3世代ふれあい交流サロンを開催。参加者全員と一緒に「さんぽ」「千の風になって」をオカリナの伴奏で歌ったほか、日舞では、中学生に混じって一緒に踊る子どもたちの愛らしい姿に、会場から惜しめない拍手が送られました。また、2月24日には、体験活動事業・ふれあいクラブ和太鼓コースの発表会を開催。小学4年生から中学2年生までの仲間が、12日間の短期間で日本古来の和太鼓の演奏を学び、最終日には息のあった成果を披露しました。初めて参加した小学4年生の男子児童は、「いろいろな学校や学年の仲間ができた。練習は難しかったが、やりがいがあり、楽しかった」と感想を述べました。



（問）県立こどもの館 079-267-1153

バレンタインデーを前に神戸等で交流会を開催（2月10日ほか）

男女の出会いの場づくりを進めている、ひょうご出会いサポートセンターは、バレンタインデーを前に、2月10日に夜景を一望できる神戸北野の会場で交流会を開催。98名が参加し、20組のカップルが誕生しました。また、神崎広域結婚相談所（事務局・グリーンエコ笠形）は、出会いサポートセンターと連携して2月3日に交流パーティーを開催。午前には男性は話し方講座、女性はブライダルメイクと衣装の着付けを体験した後、午後には交流パーティーを行う企画に参加者は大いに盛り上がりました。



ひょうご出会いサポートセンターは、今後も市町、地域団体やNPOと連携して、体験型や季節行事型など地域の特性を活かしたイベントを企画する予定です。

（問）ひょうご出会いサポートセンター 078-891-7415

「子どもたちの輝く未来を創るひょうごの大会」を開催（2月9日）

県立こどもの館は、大会の中で、若者の子育て支援をテーマにシンポジウムを開催。井戸知事が「若者が子育ての喜びを体験することが未来の親づくりにつながる」とあいさつの後、専門家による事例報告と意見交換が行われました。コメンテーターとして出席した清原県理事兼少子対策本部事務局長は、「子どもたちに自分の居場所を実感できない思いをさせないために、地域ぐるみで支援する仕組みが必要」と発言。総括として、花田雅憲座長(近畿大学名誉教授)が、若者が子育てに果たす役割の重要性や地域住民らの協力の必要性などを訴えました。(問)県立こどもの館 079-267-1153



阪神北県民局で地域少子化フォーラムを開催（2月3日）

阪神北県民局は、「安心して子どもを産み・育てることができる環境づくり」をテーマに、伊丹市内でフォーラムを開催。病児・病後児保育に携わる片山啓・片山キッズクリニック院長の基調講演の後、子育て支援や青少年の健全育成の活動報告と地域における課題についての意見交換が行われました。パネリストからは、「子どもを見つめ、抱きしめてあげる父親の存在が大きい」との発表がありました。また、参加者からは、「病気の時に預けられる施設があれば安心」「子育てには父親の役割が大きいと実感した」などの意見が寄せられました。(問)阪神北県民局地域協働課 0797-83-3136

カンガルーネットが西宮市・伊丹市でもスタート（2月6日）

(社)兵庫県看護協会は、カンガルーネット事業として、子どもが病気の時に、サポーターが保護者に代わって医療機関の受診に付き添ったり、自宅等で預かる事業を進めており、既に実施中の尼崎市・姫路市に加え、2月から西宮市・伊丹市でも事業を開始することとなりました。



<カンガルーネットサポーター研修受講者募集>

カンガルーネットのサポーターを希望される方は、下記研修会に参加ください。

日時：3月25・27・30日 各日10:00～16:00 場所：社団法人兵庫県看護協会（JR元町駅、阪急花隈駅北側） 参加料：無料（託児有、無料。要予約） 参加資格：子育て経験者又は看護職・保育士等有資格者 申込締切：3月21日 (問)兵庫県看護協会 078-341-0190

「健康にかかわる栄養と食事～子どもから高齢者まで～」シンポジウム参加者募集（3月15日）

兵庫自治学会では、県・市町職員、NPO・地域団体、大学、企業等とのコラボレーションにより、標記シンポジウムを開催します。

日時：3月15日13:30～15:30 場所：イーグレひめじ3階あいめっせホール 内容：パネルディスカッション(コメンテーター・坂上元祥 県立大学教授 / パネリスト・登里倭江 県いずみ会会長、安田尚史 神戸大学大学院医学研究員、吉村美紀 県立大学准教授、濱口清子 県立こどもの館館長) 参加料：無料 申込締切：3月13日 「栄養と健康実行委員会」との共催 (問)兵庫自治学会事務局 078-752-1321

神戸大学・兵庫県共同フォーラムの参加者募集（3月27日）

神戸大学経済経営研究所と兵庫県が共同して、「総合化へ向かう少子化政策」をテーマにフォーラムを開催します。

日時：3月27日13:00～16:30 場所：県民会館11階パルテホール 内容：講演(講師・佐藤静樹東京大学教授)、リレートーク(企業、行政、NPO代表等) 参加料：無料 申込締切：3月20日

(問)少子政策課 078-362-4183

家庭応援・少子化フォーラムを通じて ～ 県民局レポート 神戸県民局 ～

神戸県民局は、1月22日に、青少年本部神戸事務局と連携して、金香百合・HEAL ホリスティック教育実践研究所長を迎え、「神戸地域家庭応援・少子化フォーラム」を開催。家族・家庭・子育てをめぐる様々な問題を解決するには、「安心で安全な家庭づくり」や、自分も人も大切に作る「自尊心」を育むことが大事との話に、参加者から質問が相継ぎ、熱心に意見交換されました。次年度も引き続き、子育て応援ネットの推進を始め、地域ぐるみの子育て支援を行います。

(問) 神戸県民局地域協働課 078-361-8543



団体、企業の活動紹介

住友生命 - 「未来を築く子育てプロジェクト」表彰式を開催

住友生命は、創業100周年を記念して「未来を築く子育てプロジェクト」を立ち上げ、日頃子育てに関わっている方々を応援しています。このプロジェクトでは、「エイ・コンクール」、「子育て支援活動の表彰」、「女性研究者の支援」の3部門を公募。応募総数1461名から41名を選考し、2月18日に東京都内で表彰式を開催しました。兵庫県からは、エイ部門で菅沼孝治さんが「最優秀賞」に、子育て支援活動部門で「こどもコミュニティア」が「未来賞」に、女性研究者部門で古屋肇子さんが「SMI女性研究者支援賞」に入賞しました。



(問) 住友生命 03-5550-4332 <http://www.sumitomolife.co.jp/child/index.html>

三菱重工業株式会社 - 両立支援の取組み

三菱重工では、結婚や出産などで退職した者に再入社の道を開くキャリア・リターン制度、子どもを保育所に預けながら勤務する者への両立支援金などの制度を今回導入し、従来から設けている育児休業、介護休業などの支援策を含め、広範囲に及ぶ次世代育成・両立支援策を整えました。キャリア・リターン制度とは、結婚、出産、育児、介護、配偶者の転勤などを理由とする退職者を対象として、退職時に登録を行うことで将来の再入社の道を開くものです。結婚・出産などのライフイベントのために、それまで会社の中で培ったキャリアを途絶えさせることの無いよう、取り組みたいと考えています。

(問) 三菱重工業(株) 079-445-6151

NPO法人高砂キッズ・スペース - 農業体験・まちの寺子屋プロジェクト

NPO法人高砂キッズ・スペース(久井志保代表)は、高砂市内10箇所の学童保育所の運営を始め、広く子育て支援に取り組んでいます。今年度は、地域と子どもを結びつける農業体験プロジェクトを実施し、NPO法人高砂の協力を得て、高砂市内の小学生に田植えから稲刈りなどの体験や新米収穫祭を行いました。また、県職員提案事業化リスト「まちの寺子屋プロジェクト」として、200体の案山子でにぎわう「案山子ストリート」などを実施しました。今後も、地域の人々との交流の中から子どもたちを安心して見守っていける地域コミュニティを創造していきたいと考えています。

(問) NPO法人高砂キッズ・スペース 079-442-0817



編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。

兵庫県少子対策本部事務局(健康生活部少子局少子政策課): E-mail:shoshiseisaku@pref.hyogo.jp

子ども未来通信 3 月号

http://web.pref.hyogo.jp/hw08/hw08_000000002.html



子育て応援元気アップ賞表彰式を開催（3月24日）

県は、地域の子育て支援に貢献している団体等を顕彰する「子育て応援元気アップ賞」の表彰式を開催。井戸知事が、県内の全小学校区で立ち上がった「子育て応援ネット」の県連合婦人会(北野美智子会長)をはじめ、まちの子育てひろばの運営など、地域で活動している 35 団体を表彰。また、記念講演では、三池輝久・熊本大学大学院教授が



「子どもの眠りと脳の発達」について最新の研究成果を発表しました。三池教授は 20 年 4 月から「子どもの睡眠と発達医療センター-所長(県立総合リハビリセンター内)」に就任予定



(問)県少子政策課 078-362-4232 三池教授の講演

阪神北広域こども急病センターが竣工（3月23日）

県及び地元医師会の協力を得て、阪神北圏域 4 市町(伊丹市、宝塚市、川西市、猪名川町)が共同で設置・運営を行い、休日や夜間に急病の子どもを診療する「阪神広域こども急病センター」が竣工。

記念式典で井戸知事が、「限られた医療資源を有効に活用するため、医療関係者をはじめ、地元住民の皆さんの協力が大切」と挨拶しました。

【施設概要】 場所・伊丹市昆陽池 事業内容・休日・夜間等における小児科初期診療等
診療時間・平日：午後 8 時～翌朝 7 時(土曜：午後 3 時～翌朝 7 時、日祝日等：午前 9 時～翌朝 7 時
(問) 阪神北県民局宝塚健康福祉事務所 0797-83-3147



神戸経済同友会が少子対策を提言（3月12日）

神戸経済同友会(小川恵三、矢崎和彦代表幹事)が、「企業の社会的役割と少子化対策」に関する提言をまとめ、知事に報告。



小川、矢崎両代表幹事は、少子対策が最優先の社会的課題であり、企業が積極的主体的に少子対策に取り組む必要があるなど、提言の骨子を説明し、知事は、事業所内保育施設の整備助成の活用や出会いサポート事業への参加を働きかけるなど、今後、より一層の連携を図っていくことを確認しました。

(問)県少子政策課 078-362-4183

神戸大学・兵庫県・兵庫労働局が共同フォーラムを開催（3月27日）

地域の視点で少子化の調査研究を行ってきた神戸大学経済経営研究所、兵庫県と兵庫労働局がフォーラムを開催し成果を発表。第 1 部では佐藤博樹・東京大学社会科学研究所教授がワーク・ライフ・バランス(WLB)の実現には、多様なライフスタイルを受容できる職場づくり＝「土台」と、社員の時間制約を前提にした仕事の管理＝「1 階」と、WLB 支援の制度導入等＝「2 階」が不可欠である旨を講演。第 2 部では、向井祥隆・篠山市福祉部長をはじめ、行政、企業、NPO 関係者のパネル討議が行われ、若者の就業・定住や企業の取り組み、女性チャレンジ、放課後子どもクラブや親への育児・就業の支援などの報告・討議が行われました。



佐藤教授の講演

(問)県少子政策課 078-362-4183



再チャレンジのための学習支援システム構築事業成果発表会を開催（3月22日）

兵庫県再チャレンジ学習支援協議会(事務局:県立男女共同参画センター)が文部科学省から受託実施している 再チャレンジ学習に関するニーズ調査、在宅ワーカ―学習支援ソフトの開発、データブックの作成等の再就職、起業、在宅ワーク等支援事業の成果発表会を神戸市内で開催。大石友子・京都学園大学教授によるチャレンジへの第一歩を踏み出すことの大切さについての講演やS O H O・在宅ワークについてのパネルディスカッションが行われました。



(問)県立男女共同参画センター 078-360-8550

ひょうご環境体験館がオープン（3月20日）

体験型環境学習施設が播磨科学公園都市内にオープン。この施設は、太陽光発電や小型風力発電、屋上緑化など建物自体に導入した地球温暖化防止技術を展示しているほか、エネルギー実験や科学実験、環境工作などの体験型の環境学習プログラムを通じて環境の大切さに気づき、学ぶことを目的としています。開設記念式典で斎藤副知事は、「多くの方に利用いただき、貴重な環境の保全と創造のために一人ひとりが何をすべきかを考えていただきたい」と挨拶しました。



体験館内部

(問)県環境学習課 078-362-4421

NPO と行政の子育て支援会議が交流会を開催（3月19日）

NPOと行政の子育て支援会議が神戸市内で交流会を開催。神戸市からの「神戸っすこやかプラン21」など子育てに関する施策説明に続き、乳幼児・未就学児、学童など就学児童、地域で育む子育てのテーマ別に3グループに分かれてディスカッションが行われました。参加者からは、「NPOと行政が単独ではできないことをお互いに埋め合っていきたい」などの意見が出されました。



(問)NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸 078-841-0310

健康にかかわる栄養と食事シンポジウムを開催（3月15日）

栄養と健康実行委員(委員長:坂上元祥・県立大学環境人間学部教授)と兵庫自治学会の共催により、栄養と食事をテーマにシンポジウムが姫路市内で開催され、医師・管理栄養士である県立大学教員、地域団体代表、行政関係者によるパネル討議で、「健康寿命を延ばすには幼少期から高齢期まで食生活の改善が大切」、「地域活動団体や行政が連携して普及啓発に引き続き取り組む必要がある」などの意見交換が行われました。(問)兵庫自治学会 078-752-1321



近畿大会優勝を記念し、県立明石学園でレモンを植樹（3月16日）

県立明石学園で昨年12月の近畿女子バレーボール大会と近畿駅伝大会(男女)の優勝を記念し、植樹が行われました。細川・県健康生活部長は、子どもたちの一層の活躍を願い、自宅で育てたレモンの苗木を提供し、土づくりから水やりの方法まで子どもたちに伝授。「早くレモンが実るのが楽しみ。心を込めて育てていきたい」と、子どもたちに園芸の楽しさが伝わったようです。

(問)県児童課 078-362-3198



特定認可外保育施設で初の認定こども園が誕生（3月12日）

県は、就学前の子どもに保育・教育を一体的に提供する認定こども園に、特定認可外保育施設として県内で初めて「せきれい保育園」（加古川市）を認定。同保育園はJR土山駅北側に30年前に開設され、保育所と幼稚園の機能を兼ねた施設としての実績があり、このたび、地域に開かれた子育て拠点としての機能も担えるよう、認定こども園の申請を行いました。なお、せきれい保育園を含め、県内の認定こども園は合計14カ所となります。（問）県児童課 078-362-3198



県立病院女性医師バンクを設置（3月10日）



県は、県立病院における女性医師の活躍の機会を上げ、結婚や出産などで離退職した女性医師の復職を支援する「県立病院女性医師バンク」を設置しました。県立11病院（尼崎、塚口、西宮、加古川、淡路、光風、柏原、こども、がんセンター、姫路循環器病センター、粒子線医療センター）で復職希望者を診療科を問わず広く募り、ニーズに応じた臨床研修を提供することにより女性医師の復職を支援します。（問）県病院局管理課 078-362-3297

阪神南地域づくり活動応援事業の交流報告会を開催（3月9日）

こころ豊かな美しい阪神南推進会議と阪神南県民局の共催により、尼崎市内で標記交流報告会が開催され、地域で先導的な取り組みを行っている団体の活動報告と表彰式が行われました。また、表彰式では、発達障害の子を持つ親の会と協働し、プレーパークでの遊びを通じて、父親等への障害の理解を深める取り組みを行った「にしのみや遊び場つくろう会」（米山清美代表）をはじめ、9団体に賞状が授与されました。

（問）県少子対策課 078-362-4185



第16回地域女性団体ネットワーク会議を開催（3月5日）



県連合婦人会をはじめ18団体で構成する地域女性団体ネットワーク会議が神戸市内で開催され、子どもの見守りや声かけ等の活動を行う「子育て応援ネット」の活動推進母体が2月末で県内41市町815校区の全てで立ち上がったことを受け、活動をより一層推進していくことを確認。さらに、各団体から地域の子育て支援の現状・課題の報告と意見交換が行われました。

（問）県少子対策課 078-362-4186

各県民局が「子育て3ひろば地域交流会」を開催（19年6月29日～20年2月20日）

地域ぐるみの子育てを支援するため、子育て中の親子が集う「まちの子育てひろば」（1,845か所）、子どもたちが自由な発想で遊ぶ「子どもの冒険ひろば」（370か所）、学校帰りの中高生等が立ち寄り「若者ゆうゆう広場」（47か所）が開設されています。これらの3ひろばの関係者が集まり、意見交換などを行う「子育て3ひろば地域交流会」が10県民局域で開催され、のべ2,855名が参加。各交流会で3つのひろばの活動状況報告や子育て支援情報の紹介が行われ、ひろばの今後の連携方法などについて意見交換が行われました。

（問）県青少年課 078-362-3143



阪神北地域の交流会

第8回ひょうごキッズふれあいマラソン大会を開催(3月2日)

兵庫県児童養護連絡協議会が、県内16か所の児童施設入所児童らによるマラソン大会を県立播磨中央公園で開催。年代別のマラソンや16チームによる施設対抗駅伝が行われました。沿道から大きな声援を受けた子どもたちは、「たすきをつなぐことで、チームのみんなと心が一つになれました」とコメント。競技終了後は、参加者に「フェニックス神戸ゾンタクラブ」(ボランティア団体)から豚汁が振る舞われ、交流と友好を深めました。

(問) 県児童課 078-362-3198



佐用町が『みんなで子育て』シンポジウムを開催(3月8日)

佐用町は、子育てを共に支えあう社会づくりを目指してシンポジウムを開催。子育て中のパパ・ママや子育て支援団体代表者、企業代表等をパネリストに迎え、活動報告や子育ての喜び・悩みについて意見交換を行いました。コーディネーターの勝木洋子・県立大学環境人間学部教授は、「女性や専門職だけではなく、高齢者など、地域のすべての世代のパワーを生かして子どもたちの成長を支え合うことが必要」と締めくくりました。

(問) 佐用町福祉課 0790-82-0661



団体、企業の活動紹介

神戸新聞社(株) - 2008 すきっぷストリート in ハーバーランドを開催(3月22・23日)

神戸新聞社は、同社が展開している子育て支援プロジェクト「すきっぷ21 - みんなの子育て」の5周年を記念し、親子で楽しめる参加型イベントを神戸・ハーバーランド一帯で開催。7会場でゲームやキッズミュージカル、ミニステージなどが催され、終日多くの家族連れでにぎわいました。0歳から入場できるクラシックコンサートには約600人の親子が参加し、ピアノとハーモニカの演奏に合わせてリズムを取ったり、童謡コーナーでは一緒に歌って楽しんでいました。

(問) 神戸新聞社地域活動局 078-362-7052

NPO 法人 はらっば - 地域ぐるみの保育活動



「NPO法人 はらっば」は、昭和54年以来、西宮市で保育活動に取り組み、子どもたちが健やかに育つ場づくりを目指して、地域の親子も交えたダンスや1年を通じた米作り体験などの活動をしてきました。今後は、これらの活動を基本に、より一層地域の方々とともに子どもの安全と健やかな暮らしを考えていこうと、心肺蘇生法などの子どもを守るための講演会や地域と連携した避難訓練等の実施を検討しています。

(問) NPO 法人 はらっば 0798-22-3561

編集部からのお知らせ

「子ども未来通信」は、市町、企業、商工会議所・商工会、青年会議所、地域団体・NPO、県関係機関などや希望者に原則として電子メールにより配信しています。新たに配信を希望される方は、下記アドレスに「子ども未来通信・配信希望」とご送信ください。4月から、次の組織・アドレスに変更となります。

兵庫県少子対策本部事務局(健康福祉部企画少子局少子対策課): E-mail:shoshitaisaku@pref.hyogo.jp